

多文化の学舎跡 共生の場に



旧御幸森小学校。運動場は芝生になる予定だ。大阪市生野区桃谷5丁目

韓国食材店や韓流ショッピングが立ち並ぶ大阪コリアタウンから南に100㍍ほど場所に同小はある。在日

学習支援教室やカフェ 旧御幸森小に「いくのパーク」

昨年3月に閉校した大阪市生野区の御幸森小学校は、「多文化共生教育」の取り組みで知られた。朝鮮半島にルーツを持つ児童が多く通ったその学校の跡地が、様々な国籍や世代間の「共生」をめざす拠点施設に生まれ変わる。

韓国食材店や韓流ショッピングが立ち並ぶ大阪コリアタウンから南に100㍍ほど場所に同小はある。在日

人口の2割 外国籍のまち 「交流育む」

コリアンの児童らが放課後にその言葉や文化を学ぶ課外活動「民族学級」など、多文化共生の取り組みが評価され、2012年には国連教育科学文化機関がユネスコ憲章の理念を実践する学校を認定する「ユネスコスクール」に選ばれた。

100年近い歴史を刻んできたが、昨年3月、児童数の減少によって隣接校と統合された。

学校跡地を活用する事業

者として大阪市から選ばれたのが、外国人ルーツの子どもたちの学習支援に取り組むNPO法人「IKUNO・多文化ふらっと」(同市生野区)だ。食を通じたまちづくりに取り組む「RETO WN」(同区)だ。両者がともに手を挙げ、共同事業としてタッグを組むことになった。

生野区は人口約12万6千人のうち、在日コリアンをはじめとする外国籍の住民が21%超を占める。国籍別では約60カ国もの人々が暮らしている。

こうした背景から、両者は「全国No.1のグローバルタウンへ!」を目標に掲げ、多文化共生の視点から施設作りに取り組む。施設の名は「いくのコーライブズパーク(略称・いくのパーク)」とした。

図書室は、木をふんだんに使って本棚や内装を全面的に改装。体育館は避難所や投票所の機能を残しつつ、イベントスペースとしても貸し出す。運動場には芝生を敷いて、地域の高齢者らの憩いの場にする。

主に外国籍の子どもが学ぶ「学習サポート」教室も備える。カフェや飲食店なども入る予定だ。

図書室や体育館など一部はすでにオープンし、来年初めには全面的にスタートする。同NPO法人の理事長事務局長、宋悟さんは「隣接するコリアタウンとともに、人の出会いや交流が生まれる多文化共生のまちづくりの軸となりたい」と意気込む。(大滝哲彰)